

第71回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2012年11月29日（木）10:00～19:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：(委員23名中、出席者19名；敬称略)

小山（三菱重工）、永田（日立GE）、堂崎（日本原電）、小木曾（川崎重工）、鬼沢（JAEA）

肥田（中部プラントサービス）、町田（テプコシステムズ）、野村（関電）、杉江（原技協）、菊池（JNES）

岩佐（東芝）、小島（東電）、兼近（鹿島）、山田（中部電力）、糸田川（電気協会）、田中（日本製鋼所）

鹿島（電中研）、笠原（東大：AM）、月森（JAEA）

欠席：栗飯原（東大）、望月（阪大）、神坐（富士電機）、佐藤（発電技検）

代理：伊藤（東電：16:00以降小島委員代理）

オブザーバー：片山（関西電力）、北条／石生／柴山／関（三菱重工）

山本／三橋（東芝）、西澤／古川／藤野（日本原電）、加納／平／高坂（日本原燃）、齋藤（原技協）

宮口（IHI）、浅山（JAEA）、清水／矢野倉（日立GE）

事務局：高柳／小沢／栗津

4. 配布資料

71-1：第70回原子力専門委員会議事録案

71-2：投票結果

71-3：新規質問、未回答質問及び公衆審査結果

71-4：第61回発電用設備規格委員会議事録案

71-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案

71-6-1：原子力専門委員会での審議の充実化のためお願い

71-6-2：規格委員会書面投票NO.203「引用する規格の年版について」投票意見への対応案

71-6-3-1：原子力専門委員会書面投票（再度の1次投票）コメントへの回答案

71-6-3-2：原子力専門委員会書面投票（2次投票）コメントへの回答案

71-6-3-3：外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン（BWR編）案

71-6-4：発電用原子力設備規格 設計・建設規格（第I編）事例規格 一般要求事項の提案対応

71-6-5：ASME規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規の提案

71-6-6：設計・建設規格英訳タスク報告

71-6-7：ASME BPV Section X IにおけるJSME/ASME Joint Task Group on System Based Codeの設置

71-6-8：「事例規格の出版、改訂等に関する提案」の規格委員会書面投票対応

71-6-9：原子力関連学協会規格類協議会第31回状況

71-6-10：シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの策定進捗状況報告

71-6-11：ASME Code Week Washington DCにおけるMDEPプロジェクトSDO打合せ報告

71-6-12：原子力専門委員会各分科会活動報告

71-6-13：原子力専門委員会各タスク活動報告

71-7-1：封止溶接方法規格案

71-7-2：アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由

71-7-3：30年目以降の検査プログラム変更方法の明確化

71-7-4：クラス2、3配管の欠陥評価法

71-7-5：事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力

71-7-6-1：軽微な技術上の改訂—ステンレス鋼の材料定数の修正

71-7-6-2：軽微な技術上の改訂—材料規格の引用規格への追加

71-7-6-3：軽微な技術上の改訂—進展速度式適宜見直し削除

71-7-7：JEAG4217-2010 渦電流探傷試験指針の取込

71-7-8：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化

71-8-1：原子力専門委員会書面投票意見回答案

71-8-2：溶接規格2013年追補改訂案（その2）

71-9-1：設計・建設規格への質問回答案件

71-9-2：設計・建設規格第Ⅰ編 2013 年追補改訂案原子力専門委員会書面投票コメント対応案
71-9-3：事例規格压力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定改訂案書面投票対応案
71-10-1：再処理設備規格 設計規格（2015 年）高度化に係わる原子力専門委員会書面投票意見対応
71-11-1-1：QNC200598 回答案
71-11-1-2：QNC2005100 回答案
71-11-1-3：QNC2005101 回答案
71-11-2：材料規格 2012 年追補提案で否決された項目の対応
71-11-3：材料規格高度化のための材料専門委員会でのレビュー
71-11-4：SN 材の取込検討
71-12-1：金属キャスク構造規格の改訂
71-12-2：金属キャスク構造規格 2013 年版改訂について
71-12-3-1：金属キャスク構造規格本文（2013 年版）新旧対照表
71-12-3-2：金属キャスク構造規格解説（2013 年版）新旧対照表
71-13：コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の概要
71-14：各分科会活動報告

5. 議事内容

（1）開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

（2）出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

（3）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

（4）前回議事録確認【資料 71-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

（5）投票結果報告【資料 71-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 282 から 294、規格委員会投票 No. 203 から 206 の投票結果が報告された。

（6）質問受付&公衆審査結果【資料 71-3】

事務局より、設計・建設規格に関する新規質問（3 件）、検討中質問（3 件）の受付が報告された。また以下の規格案の公衆審査結果（全て意見なし）が報告された。

- ・再処理設備規格 維持規格 2012 年版案
- ・維持規格 事例規格ニッケル基合金 BWR 環境中 SCC き裂進展線図案
- ・維持規格 2012 年版案
- ・設計・建設規格 2012 年版第Ⅱ編高速炉規格案
- ・溶接規格 2012 年版案
- ・材料規格 2012 年追補案

なお材料規格 2012 年「追補」案は、JIS 等の改訂も取り込んだため差替ページがかなり多くなり、また、現在検討中の「発電用設備規格の原案策定に関する内規」（案）では「設計・建設」、「溶接」、「材料」等の規格の改訂版発行時期を 2012 年改訂版以降統一するとの記載をしていることから、読者の利便性を図るためも、「改訂版」としての発行を検討した。これに関して審議要領上特に問題はなく、改訂版として発行することが了承された。

(7) 第 62 回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料 71-4】

事務局より、第 62 回発電用設備規格委員会の議事録案が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 71-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 肥田委員

〔退任〕 天野委員

設計・建設分科会：

〔再任〕 鶴飼委員

〔退任〕 天野委員

材料分科会：

〔退任〕 天野委員

維持規格分科会

〔再任〕 宮崎幹事、桑水流委員

〔退任〕 小島委員、日野委員、津金委員、田中委員

〔新任〕 吉田氏（東電）、守中氏（日立GE）

溶接分科会：

〔再任〕 森脇委員、南委員

〔退任〕 天野委員

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 下条委員

〔退任〕 阪田委員

〔新任〕 茂手木氏（OCL）

配管破損防護設計分科会

〔再任〕 飯泉委員

〔退任〕 米田委員

〔新任〕 清水氏（北電）

コンクリート製格納容器規格分科会

〔退任〕 大坂委員、小林委員

〔新任〕 今村氏（日立GE）、森屋氏（JNES）

環境疲労評価分科会

〔退任〕 秋山委員、天野委員

〔新任〕 掘家氏（四電）

再処理設備分科会

〔再任〕 林委員

配管減肉分科会

〔再任〕 伊藤委員

〔退任〕 岩原委員、津金委員

〔新任〕 日高氏（日立GE）

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

(9) 原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

〔審議事項〕

（９－１）原子力専門委員会での審議の充実化に関する提案【資料 71-6-1】

小山委員長より原子力専門委員会での審議の充実化のためのお願ひに関する説明が行われた。本案は運営規約の範囲内で、審議の効率化と充実化を図るための対応であり、基本は審議資料を事前にメールにて各委員に送付し、当日までに目を通して頂き、当日の議論をより有効にするための方策である。今後、本案の運用を行うことになった。

（９－２）引用する規格の年版等に関する提案【資料 71-6-2】

堂崎幹事より引用する規格の年版及び発電用設備規格の原案策定に関する内規改訂案の規格委員会書面投票結果（可決）の意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に対応案の説明を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－３）外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン投票対応【資料 71-6-3-1～3】

宮口規格委員会副委員長より外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン案の原子力専門委員会再投票結果（反対票有り）及び二次投票結果（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、再投票の反対意見者は本日の意見回答案を持ち帰って検討し、検討の結果反対票を取り下げれば再投票提案は可決、取り下げない場合は二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。二次投票の一部の意見の意見回答案が今回間に合わなかったため、それを作成し、後日事務局から原専各委員にメールにて送付することになった。

また二次投票実施の場合、可決後、規格委員会の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－４）事例規格一般要求事項御意見伺い対応【資料 71-6-4】

小山委員長より事例規格一般要求事項御意見伺い対応（反対票有り）の意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、反対票は取り下げられ、意見対応案が承認された。今後は意見対応案を踏まえ、正式に書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－５）ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規案【資料 71-6-5】

小山委員長より ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規案に関する説明が行われた。内規案では ASME 規格値をそのまま取り込む場合は ASME の SI 単位規定値採用を基本とする。ASME 規格値を参照するものの JSME 独自の検討を行って規定値を定める場合はこれによらないが、本来の考え方を考慮する。内規案の原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。火力専門委員会での同案の書面投票結果も踏まえ、規格委員会書面投票を行い、規格委員会の内規として制定する。

（９－６）設計・建設規格英訳タスクの状況【資料 71-6-6】

永田副委員長より設計・建設規格英訳タスクの状況に関する説明が行われた。英訳作業もほぼ最終段階であり、英訳版の発行形態は発電用設備規格委員会での検討資料とし、規格の参考図書の位置付けで要請により提供することとしたいとの主旨のタスク提案が説明された。これに対してタスクメンバーの努力の成果を委員会外部へ公開する観点で正式な図書として発行・販売するべきとの意見もあり、今後継続検討することにした。外部への公開には native check が必要であり、その費用面の見通しが得られれば、native check 後英訳版の書面投票の実施を検討する。

（９－７）ASME における JSME/ASME Joint Task Group on System Based Code の設置【資料 71-6-7】

浅山主査よりシステム化規格概念に係る ASME における JSME/ASME Joint Task Group on System Based Code の設置に伴う同 TG 活動との原子力専門委員会の協調方策に関する説明が行われた。議論の結果、システム化規格検討タスク及び高温規格分科会での活動提案が承認され、次回規格委員会に提案することになった。

〔報告事項〕

（９－８）事例規格の出版、改訂等に関する提案【資料 71-6-8】

齋藤主査より事例規格の出版、改訂等に関する提案の説明が行われた。本案は第 62 回規格委員会で書面投

票意見回答案が承認済であるが、その後内規の一部誤記訂正（「追補版」→「追補」）を実施したもので、委員全員の賛成により承認された。

（９－９）原子力関連学協会規格類協議会状況【資料 71-6-9】

小山委員長より第 31 回原子力関連学協会規格類協議会の状況に関する説明が行われた。原子力関連学協会規格類協議会では東電福島原発事故を踏まえた原子力安全の向上に向けた学協会規格の整備計画案の作成等を実施しており、また規制庁発足に伴う関連対応等、実施している。

（９－１０）シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの策定進捗状況【資料 71-6-10】

永田副委員長よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドラインの策定進捗状況に関する説明が行われた。本件、構造評価手法に関しては次回の原子力専門委員会において審議にかかる予定である。

（９－９）MDEP の状況【資料 71-6-11】

永田副委員長より ASME Code Week Phoenix における MDEP プロジェクト SDO 打合せ報告に関する説明が行われた。SDO Convergence Board のチャーターについて議論中。CSWG から提示された Code Harmonization に関する図書のコメント提示。Convergence Board として課題の抽出と優先度付けを行う予定。

（９－１０）原子力専門委員会各分科会活動計画【資料 71-6-12】

堂崎幹事より原子力専門委員会各分科会活動計画等の状況に関する説明が行われた。本件、内容等に関する書面投票形式での御意見伺いを行うことが委員全員の賛成により承認された。

（９－１１）原子力専門委員会各タスク活動報告【資料 71-6-13】

小山委員長より原子力専門委員会各タスク活動報告に関する説明が行われた。

（１０）原子力発電用設備規格に関する報告／審議

（１０－１）維持規格改訂案に関する審議【資料 71-7-1～8】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の柴山幹事、藤野委員、三橋委員、評価作業会の北条主査、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①封止溶接方法規格案【資料 71-7-1】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・意見 No. 15（山田委員賛成意見）の回答については、封止溶接方法においては初層溶接施工後に検査を行うことから、万一、中性子照射に係わる溶接欠陥が生じて、欠陥の検出が可能である旨を記載すればよい。⇒ 拝承。

②アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由【資料 71-7-2】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、原子力専門委員会二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・アライナブラケット等において確認されているひびが全周に廻って、ルースパーツとなる様なことはないのか？→当該事象発生プラントではひび割れは角部のみに発生しており、全周に廻ることはない。
- ・定期的にひび割れ発生箇所は問題のないことを確認しているのか？→これまでの点検実績から進展しないことが確認されており、個別検査の対象から除外している。

③30 年目以降の検査プログラム変更方法の明確化【資料 71-7-3】

原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

④クラス 2、3 配管の欠陥評価法【資料 71-7-4】

原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・破壊靱性の比 γ が小さい程評価不要欠陥寸法が小さくなり安全側の評価になるとのことであるが、小さくなくてもき裂深さの最小値は 1.5mm で打ち切りということか？ γ が小さい時、き裂深さが 1.5mm を下回ることあるのか？→ γ に制限を設けなくても寸法で制限を行っている。国内材料ではき裂深さが 1.5mm を下回ることはない。

⑤事例規格 極限荷重評価法に用いる流動応力【資料 71-7-5】

原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・破壊基準応力の置き換えにおいて、アスペクト比 (a/t) は「 $0 \leq a/t$ 」としているが、初期欠陥深さが 0 ということは有り得ないので、「 $0 < a/t$ 」とすべきではないか？→ 拝承

⑥軽微な技術上の改訂—ステンレス鋼の材料定数の修正【資料 71-7-6-1】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、反対意見者は意見回答案を持ち帰り、反対票を取り下げるか否か、検討することになった。反対票の取り下げがない場合、原子力専門委員会二次投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・解説を改訂することは了解したが、当該箇所のみ非保守的になっているのではないか？→ 当時は貫通欠陥のみ考慮した粗い近似であり、その後の知見も踏まえて非貫通欠陥も考慮した Z 係数に修正すべきかもしれない。
- ・規格改訂に際してのバックデータ、トレーサビリティを機械学会として整備する必要があるのではないか？

⑦軽微な技術上の改訂—材料規格の引用規格への追加【資料 71-7-6-2】

原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・一部材料の S 値の S_u の設計係数が 4 から 3.5 に変更になったことに伴い、既設プラントの補修時における接続部の健全性確認等の対応を検討する必要があるのではないか？→ 維持規格分科会をメインに今後原子力専門委員会幹事会で対応を考える。

⑧軽微な技術上の改訂—進展速度式適宜見直し削除【資料 71-7-6-3】

原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

⑨JEAG4217-2010 渦電流探傷試験指針の取込【資料 71-7-7】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

⑩弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化【資料 71-7-8】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10-2) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 71-8-1, 2】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 71-8-1】

原子力専門委員会書面投票（一部反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。W10-11 開先面に関する解説改訂案以外の改訂案件の書面投票意見回答案、修正案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。W10-11 開先面に関する解説改訂案に対する書面投票意見回答案の審議は次の原子力専門委員会で行うことにした。主な議論は以下の通り。

- ・ 保持時間の管理の図において、T1, T2 と記載されているが、T2 にするべきではないか？技術的には T2 となる。
→ T1 は T2 以上の保持時間であるため T1 であっても保持時間の要求事項を満足している。現場においては一定の保持温度になった後の保持時間 T1 で管理する方が溶接後熱処理条件の管理がし易い場合が多々あり、実際に適用されている。
- ・ 放射線透過試験における母材の厚さと材厚の明確化において、シンニング加工後の厚さの表現を公称厚さとするのは見直した方が良いのでは？
→ 厚さ（図面指示厚さ）に修正する。

②溶接規格 2013 年追補改訂案（その 2）【資料 71-8-2】

溶接規格 2013 年追補改訂案（その 2）に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(10-3) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 71-9-1～4】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格への質問回答【資料 70-9-1】

設計・建設規格への質問回答案に関する説明が行われた。

DC12-002 (QNC200590)「フレキシブルチューブの解釈」については、議論の結果、質問を「クラス 2 配管の金属フレキシブルチューブで、ステンレス鋼製の U 形伸縮継手（ベローズ）を有するものの伸縮継手（ベローズ）の疲労評価には PPC-3416 を適用しなければならないのか？」に修正し、回答は「その解釈で良い」とすることが委員全員の賛成により承認された。

また DC12-026 (QNC200806)「鋳造品の試験片採取位置」については、議論の結果、回答の初めに「その解釈は認められない」を追加することが委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案原子力専門委員会書面投票対応【資料 71-9-2】

設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案の原子力専門委員会書面投票（一部反対票有り）対応案に関する説明が行われた。反対票が寄せられた案件のうち、「単品試験後加工部の耐圧試験」は今回の改訂分から取り下げ、「非破壊試験関係の JIS, JEAC2011 年版までの反映」は設計・建設規格では素材製造時のきずを検出するのが目的であるため探触子 10%ラップで問題ない旨、解説に記載することを今後検討することで反対票は取り下げられた。回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・ JEAC 年版読替について、JEAC 年版が変更された後、設計・建設規格に反映されるまでの期間が長過ぎるのではないかと？→ JEAC 年版が改訂された場合、改訂に伴う影響評価を行い、原専、規格の書面投票を行い、反対票が出ればいったん改訂案を取り下げることもある。設計・建設規格に反映されるまで、どうしても時間遅れが生じてしまう。

③事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品に関する規定改訂案書面投票対応【資料 71-9-3】

事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定改訂案書面投票（可決）対応案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

④設計・建設規格第Ⅰ編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表【資料 71-9-4】

設計・建設規格第Ⅰ編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表提案に関する説明が行われた。別表 1-1 の備考の記載漏れと別表 1-3 の備考の材料規格年版削除漏れに対応したもので、委員全員の賛成により承認された。

（10-4）再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 71-10-1】

再処理設備分科会の加納幹事、矢野倉委員、設計規格作業会の平幹事、高坂委員より再処理設備規格 設計規格（2015 年）高度化に係わる原子力専門委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（10-5）材料規格に関する審議、報告【資料 71-11-1~4】

材料分科会の山田主査、伊藤委員より材料規格に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格付録材料図表への質問回答【資料 71-11-1-1~3】

設計・建設規格付録材料図表への質問回答案に関する説明が行われた。

議論の結果、一部回答案の修正を行うことで QNC200598, QNC2005100, QNC2005101 の質問回答案が委員全員の賛成により承認された。

②材料規格 2012 年追補提案で否決された項目の対応【資料 71-11-2】

材料規格 2012 年追補提案で否決された項目の対応案に関する説明が行われた。議論の結果、対応案（取下げ）が委員全員の賛成により承認された。

③材料規格高度化のための材料専門委員会でのレビューについて【資料 71-11-3】

材料規格高度化のための材料専門委員会でのレビューが行われることとなった旨の報告がなされた。

④SN 材（新規材料）の取込検討について【資料 71-11-4】

新規材料 SN 材の取込計画に関する報告が行われた。審議項目一覧表の出発点は材料規格改訂方針検討タスクにおけるコメント対応であることを追記することになった。

（10-6）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 71-12-1~3】

使用済燃料貯蔵施設分科会の片山副主査、清水委員、石生委員より金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案に関する説明が行われた。今回の改訂は事例規格等の取込み、他 JSME 規格との整合調整、技術評価経験の反映のほか、将来の規格充実に備えるため、現規格で未規定の構成要素について設計の考え方を解説に追記したものである。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・今回の改訂案で現行の構造規格に明記のない構成要素（二次蓋、外筒等）の設計の考え方の解説への明記を行っているが、この理由は？→むつの中間貯蔵施設の許認可対応において、当局から金属キャスク全体を一つの設備とみなして申請する様、指導があり、それを踏まえてのことである。
- ・遮蔽材の扱いはどうなっているのか？→固体状、液体状のものがおり、機器設計もそれに応じて変わっている。規制要求は性能要求のみであり、原子力学会標準に基準がある。今回の改訂はそれとの整合を図っている。
- ・三次蓋とは？→金属キャスクの輸送時に使用するものであり、貯蔵時にはそれを取り外している。

（10-7）コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の概要【資料 71-13】

コンクリート製格納容器規格分科会の西澤幹事、古川委員よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の

概要に関する説明が行われた。今回の改訂は、他 JSME 規格及び建築学会等の他学協会規格との整合をはかり、体系的に整備するため、製造要求、試験・検査要求、構造性能確認試験要求及び供用期間中検査要求を新たに追加したものである。本件は次回に書面投票提案を行う予定であり、今回はその改訂概要の事前説明となる。主な議論は以下の通り。

- ・規格本文の数字の根拠は解説に記載する。→拝承
- ・一般事項は各条項毎に規定されているが、一方で設計・建設規格の事例規格として一般要求事項を検討している。こういった状況を踏まえて、一般事項の範囲を明確にすること。→拝承
- ・規格では ASME を引用している箇所があるが、ASME との対応を分かるようにすること。→拝承

6. その他

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りになった。

第 72 回：2013 年 2 月 20 日（水）10:00～17:00（予定）JSME 第 1 会議室

第 73 回：2013 年 5 月 29 日（水）10:00～17:00（予定）JSME 第 1 会議室

以上